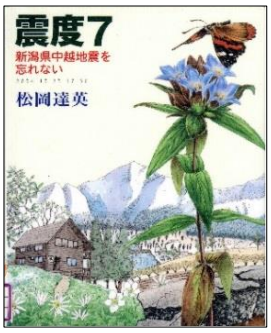
図書館の窓から

長岡市立中央図書館報　No.164
2019★春号

～「読みたい・識(し)りたい」
そういう図書館がある～

『震度７　新潟県中越地震を忘れない』

松岡 達英／文・絵
ポプラ社



震源の川口町（当時）で最大震度７を観測した新潟県中越地震。あれから今年で 15 年です。長岡市出身の自然絵本作家・松岡達英さんは、川口町のアトリエで被災しました。その体験を通して語られる、川口町の自然や人々への愛にあふれた一冊です。

『朱鷺(とき)の遺言』

小林 照幸／著
文藝春秋

本書が描くのは、野生の朱鷺終焉の物語です。滅びゆく朱鷺にとって何が幸せなのか？　自問自答を重ねる当事者たちの心情が精緻に描かれています。純日本産の朱鷺は絶滅しましたが、その後人工繁殖・放鳥に成功。彼らが夢見た朱鷺色の翼は今、佐渡に蘇りました。

おすすめ図書紹介

新潟の平成

平成も残りわずかとなりました。
新潟県での平成の出来事を本で
振り返ってみませんか？

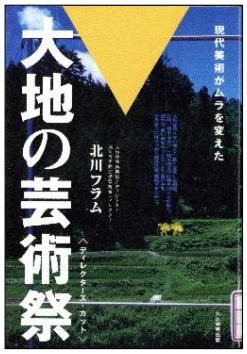
『ドキュメント拉致』

新潟日報報道部特別
取材班／編
新潟日報社

2002 年 10 月、北朝鮮による拉致被害者５人が帰国を果たしました（うち新潟県出身者３人）。拉致されてから実に 24 年の月日が流れていました。本書は、新潟日報社が２年に渡って取材した写真・記事を掲載。歴史的瞬間が多数収録されています。

『大地の芸術祭　ディレクターズ・カット
現代美術がムラを変えた』

北川　フラム／著
KADOKAWA



アートによる地域活性化の先駆けとなった大地の芸術祭。総合ディレクターである著者は、越後妻有を「私の学校」と振り返ります。本書は、住民の葛藤、サポーターの奔走、アーティストの創造を経て、人と人、人と土地が繋がっていく場面を魅力的に描いています。

＊このページで紹介した本は、中央図書館一般コーナー入口付近に展示しています。ぜひご利用ください！

写真「ふるさと長岡の人々」より転載

松岡譲

没後五十年　長岡が生んだ作家

yuzuru matsuoka

夏目漱石から「越後の哲学者」と呼ばれ、後に長女筆子と結婚。堀口大學・菊池寛・芥川龍之介らと親しくし、優れた作品を残した松岡譲。長岡が生んだ偉大な作家です。しかし、残念なことに、今、歴史に埋もれ、忘れられようとしているのではないでしょうか。

長岡市立図書館では、郷土の文化活動に貢献した重要な作家として、著作を中心に関連資料の収集・活用に努めています。

没後 50 年の今年、図書館で松岡譲を再発見してみませんか。

年		主なできごと
明治	24（1891）	9 月 28 日、古志郡石坂村村松（長岡市）本覚寺に長男として生まれる。善譲と命名される。
	42（1909）	県立長岡中学校卒業。同校では堀口大學と同学年で机を並べた。
	43（1910）	第一高等学校第一部乙類入学。
大正	3（1914）	山本有三・豊島与志雄、芥川龍之介・久米正雄らと同人誌 第三次『新思潮』を創刊。
	4（1915）	東京帝国大学文科大学哲学科入学。芥川らの紹介で夏目漱石の門に入る。
	5（1916）	芥川、久米、成瀬正一、菊池寛と同人誌 第四次『新思潮』創刊。12 月、漱石死去。
	6（1917）	正式に名前を譲に改名。大学を卒業。
	7（1918）	漱石の長女筆子と結婚。このことで友人の久米との絶交に至り、一時創作の筆を折る。
	12（1923）	『長篇　法城を護る人々』上巻を刊行。
昭和	3（1928）	『漱石の思ひ出』、『憂鬱な愛人』上巻を刊行。
	18（1943）	『敦煌物語』刊行。初版 1,000 部が発売即日完売。
	19（1944）	郷里の長岡市郊外の宮内町に疎開。
	20（1945）	東京の漱石山房が空襲で全焼。
	26（1951）	悠久山蒼柴神社の社務所に転居。
	38（1963）	御山町に転居、終の棲家となる。
	42（1967）	随筆集『ああ漱石山房』刊行。
	43（1968）	長岡丸大デパートで喜寿記念書画展を開く。
	44（1969）	7 月 22 日、死去。享年 77 歳。
	48（1973）	悠久山郷土史料館手前に松岡譲の文学碑建立。
	51（1976）	松岡譲文学賞が創設される。
平成	29（2017）	9 月 22 日、松岡の悲願だった漱石山房記念館が開館。漱石の孫・松岡の四女である半藤末利子さんが名誉館長となる。

関連本のご紹介

松岡譲ってどんな人？

『ふるさと長岡の人びと』　長岡市

長岡の優れた先人たちを紹介する本書。この中で文学者の一人として松岡が取り上げられ、解説を随筆家の半藤末利子さん（松岡の四女）が担当されています。父への様々な思いがあふれた貴重な証言は必読です。

『評伝 松岡譲』
関口安義／著　小沢書店

高い評価を受けながらも、松岡はなぜ文学史上に埋もれてしまったのか。20 年以上に及ぶ調査研究によって明らかにされた松岡の詳細な伝記。研究者渾身の 1 冊です。

初期作品も読めます！

『複製版「新思潮」第四次』
臨川書店

創刊号（大正５年２月発行）から漱石先生追慕特別号（同６年３月発行）までの全 11 冊。東京帝国大学の学生だった松岡が芥川龍之介、久米正雄、菊池寛、成瀬正一とともにほぼ毎月作品を発表しました。松岡の作家としてのスタートは第三次『新思潮』ですが、どちらも松岡の才気あふれる青年時代の作品を読むことができます。

代表作といえば…

『長篇　法城を護る人々』上・中・下
松岡譲／著　第一書房

自分が生まれた寺をモデルに、日本仏教界の堕落などを描いた批判的な内容が話題を呼び、ベストセラーとなりました。この長篇は、松岡の生涯の理解者であった出雲崎出身の長谷川巳之吉が起こした第一書房の記念すべき初出版でもありました。

『敦煌物語』　松岡譲／著　平凡社

舞台は中国西域地方。20 世紀初頭、敦煌千仏洞の石窟から発見された膨大な経典類を各国の探検隊が奪い合ったという歴史を題材にしています。松岡は多くの文献を読み込み、専門家の協力を得て創作し「文化史的小説」と呼んだ力作。再版された本書は、ルビや改行が加えられ、読みやすくなっています。

※上記以外にも多数所蔵しています。ぜひご利用ください。

市史双書最新刊！「安禅寺御用記」にみる江戸時代の長岡 ～文書資料室だより～

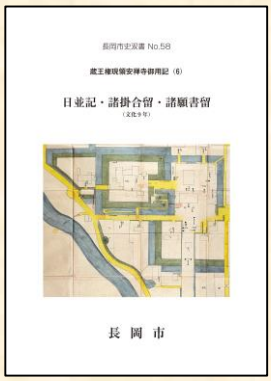
長岡市史双書は、郷土のあゆみを歴史資料から探る刊行物です。市史編さん事業が行われていた平成元年(1989)に刊行を開始しました。最新刊の№58は、安禅寺(長岡市西蔵王3)に伝わった「安禅寺御用記」シリーズの第6弾です。

「安禅寺御用記」は、蔵王権現・安禅寺に関する江戸時代を中心とした約 100 点にのぼる古記録です。本書には、文化9年(1812)の「日並記」「諸掛合留」「諸願書留」を収録しました。

「日並記」は、日誌形式で日々のできごとを天気とともに記録しています。流鏑馬(やぶさめ)・王神祭(おうじんさい)といった祭礼・神事など、約200年前の地域の年中行事のすがたがわかります。「諸掛合留」は長岡・蔵王と江戸の間の往復文書を、「諸願書留」は蔵王役所あての願書を書き留めたものです。

文化年間は、町人を中心にした化政文化が花開いた安定した時代といわれる一方、百姓たちが訴訟という方法を用いて、自らの権利を幕府や藩に対して主張していく時代でもありました。書き留められた文書のなかには、地境争いに関する記録が数多く見られ、長岡・蔵王の人びとのすがたを感じ取ることができます。

「安禅寺御用記」は、文書資料室で原本と複製を閲覧することができます。ぜひ本書を携えて来室いただき、郷土長岡の歴史をひも解いてみませんか。　　(田中洋史)



◀ **長岡市史双書№58**
『蔵王権現領安禅寺御用記（6）日並記・諸掛合留・諸願書留（文化9年）』
B5版 132ページ
頒布価格 1,500円
頒布場所 文書資料室

中央図書館所蔵資料紹介　№160　東洋越陳人　画賛

東洋越陳人(えつちんじん)(1836～1916)は天保 7 年、頸城郡野村(上越市三和区)に服部郡平として生まれます。幼い頃から画才に恵まれ、学業も熱心でした。親のすすめで医学の道を歩みますが、どうしても絵師になる夢を捨てきれず、はるか長崎の地で一念をもって南画の大家･鉄翁に弟子入りします。

そして腕を磨き、明治15年には新潟県の依頼で第1回内国絵画共進会に出品、みごと入選を果たしました。晩年は酒に飲まれて奇行を演ずることもあったようですが、自然を愛し、その無欲な様から「頸城の良寛」と称されます。

本作にみえる漢詩の年代は明治23年3月。越陳人50代半ばのものです。

「俗世から遠く離れ、ここは別天地のようだ。山あいは、もやがかかりぼうっとかすんでいる。仙界にしかないような美しい花が洞の中に満ち、まるで唐の詩人、李白と杜甫がこもって酒を酌み交わし言論をたたかわせているようだ。」と仙境の様子をイメージゆたかにうたいあげます。

実は、この一か月ほど前、越陳人は幼い愛娘を亡くしたばかりでした。哀しみにうち沈みながらも、旅立った我が子がたどりつく天界の風景を想い、あらわしたものでしょうか。　　(小熊よしみ)

☆ 4月2日(火)～4月21日(日)中央図書館エントランスギャラリーで展示します。

4月～6月 イベント

＜講 座＞

初心者向け読み聞かせ講座

◆日時：5/18（土）10:00～11:30
◆対象：子どもに関わるすべての方
　　読み聞かせ初心者の方
◆講師：高橋 啓美（当館嘱託司書）
◆会場：中央図書館２階 講座室１
◆定員：30 人（先着）参加無料
◆申込：5/6（月）9:30～窓口・電話で

＜おはなし会＞

中央図書館では、ほぼ毎日「おはなし会」を開催しています。申込は不要です。お子様やお孫さんとご一緒にお気軽にお越しください。

●親子お話工作教室
　毎週火曜日　午前 10：30
●のっぺ座　紙芝居の会
　毎週火曜日　午後４：00
●おはなしくるりんぱ
　毎週水曜日　午後３：30
●チビッコタイム
　毎週木曜日　午前 10：30
●おはなしくるりんぱ（０～３歳向け）
　毎週金曜日　午前 10：30
●おはなし会
　毎週土曜日　午後２：30
●おはなし会
　毎月第１日曜日　午後２：30

〇おやこタイム　毎週金曜日　午前 9:30～正午
小さな子どもが大きな声をだしても、温かく見守りながら利用する時間です。気兼ねなくお越しください。

＜文書資料室　休館日変更のお知らせ＞

4/1（月）より日曜日も休館します。変更後の休館日は下記のとおりです。

木曜日（祝日の場合は翌日）、日曜日、毎月の末日、12/29～1/3、互尊文庫の特別図書整理期間

ご理解のほど、よろしくお願いします。

＜映画会＞

◎入場無料・申込不要 2 階講堂
13:30 開場　14:00 上映

4/ 7（日）　**ボブという名の猫 幸せのハイタッチ**
2016 年/イギリス（103 分）

こどもの読書週間映画会
4/27（土）　**オズの魔法使い**
1939 年/アメリカ（101 分）

5/15（水）　**最高のふたり**
2008 年/イギリス・ドイツ（83 分）

5/26（日）　**ライオン～25 年目のただいま～**
2016 年/オーストラリア（119 分）

6/14（金）　**百万長者と結婚する方法**
1953 年/アメリカ（95 分）

6/29（土）　**夏をゆく人々**
2014 年/イタリア（111 分）

＜春の 20 冊キャンペーン＞

4/19（金）～5/30（木）の期間、貸出冊数を 20 冊に拡大します。こども読書週間（4/23～5/12）、ゴールデンウィークの大型連休に、ゆっくりと読書をお楽しみください。

※ ただしＣＤ・ＤＶＤは３点まで

＜カレンダー特売中＞

水島爾保布 2019 年
昔の長岡十二ヶ月カレンダー

売り切れた場合はご容赦ください。

通常価格 ~~￥７００~~ ⇒特別価格 ￥３５０

平成 31 年４月１日　長岡市立中央図書館　編集・発行
長岡市学校町 1-2-2　℡ 0258-32-0658
mail：lib@city.nagaoka.niigata.jp